

平成26年度 第1回刈谷市行政評価委員会 議事要旨

- 日 時 平成26年4月23日（水）午前10時00分～12時00分
- 場 所 刈谷市役所 401会議室
- 出席者 昇秀樹、都築繁幸、吉本理沙、加藤時彦、近藤克麿、近藤哲夫、天野櫻子
- 事務局 市長、両副市長、企画財政部長、企画財政部企画政策課長 他

1 議題・協議結果

(1) 平成26年度 行政評価の実施について

平成26年度の行政評価は、例年どおり内部評価及び外部評価を行うことを決定し、内部評価は引き続き約900事業の事務事業評価を実施することを決定。外部評価の実施方法については、議題2で検討する。

(2) 平成26年度 外部評価の実施方法について

平成26年度の外部評価は、事務局案1（資料1）による施策の内容レベルでの評価（小施策評価）を実施することを決定する。ただし、外部評価を実施する6～7つの施策の内容を決定する過程で、重要度のみで判断するのではなく、市が効果的な施策推進方策を見出せていないものなど、課題となっている施策の内容についても考慮することとする。

2 会議資料

資料1；平成26年度 第1回刈谷市行政評価委員会

参考資料 刈谷市行政評価委員会委員名簿、今後のスケジュール

事前配布資料 第7次総合計画

3 議事

○会議資料の確認

○情報公開の確認

(1) 平成26年度 行政評価の実施について

(2) 平成26年度 外部評価の実施方法について

※関連があるため、一括して審議

（事務局より、資料1の説明）

委員 案1について、重要度の高いものを選んでいくのは基本だと思うのだが、施策評価をやってみて、施策目的を達成するための手段としての事務事業に戻ったとき、疑問に残る部分がある場合もあるかと思うが、これをフォローすべき。現場に最も近く、事業内容に詳しい職員の疑問を解決するような外部評価を実施したらどうか。

委員 行政評価委員会は、刈谷市をよくするために、刈谷市民が暮らしやすいまちにするために議論している。その評価結果がどう影響され、どのように事業を見直したか、具体的にこの事業はこう変わり、今後はこうしていきたいというようなことを知りたい。

事務局 毎年、本委員会で評価結果に対する市の方針や対応を報告させていただいているところ。

委員長 対応方針だけでは、具体的に変わったということが分からない。まだ、行政評価の開始から期間が浅いので、事例は少ないかもしれないが、対応方針に基づいて対応を行った結果、このようによくなったという優良事例を数件でいいので全職員に紹介することで、その考え方がさらに浸透し、各職員が担当する仕事の改善につながる。またさらにそれを評価して改善していく Plan-Do-See の繰り返しを行うことが重要。

早急にすべて行うことはできないので、とりあえず優良事例を発掘し、職員に紹介することを行った方がよい。

事務局 今後の市民意識調査で満足度が上がったかどうかをチェックすることと同じ意味合いで捉えてもよろしいか。

委員 成果として事務事業がいくつ変わったのかということを知りたい。

委員長 職員の意識が変わったという主観的な結果ではなく、事業の立案の仕方、進め方、評価の仕方などがこのように変わったという客観的な結果を示してもらいたい。最終的なアウトカムは市民の意識や満足度で測るものだが、その中間段階での結果として事務事業のやり方がどう見直され、職員が市民に対してどの程度手応えを感じているのかということが分かれば、評価を行った結果として事務事業が改善され、市民満足度が上がったと論理立てて説明できる。

このようなことを実施する自治体の事例はあまりなく、難しいことは承知だが、チャレンジしてみた方がいいのではないか。

委員 目的や成果指標と照らし合わせたとき、何を変えていくのか職員が分

かっていけばいいのだが、何を変えればいいのか分からないような事業、困っている事業を行政評価委員会で取り上げて議論できれば、改善につながると思う。

委員長 ピックアップする視点として、重要度だけでなく、施策達成へ向けた方向性は分かっているが実際にどんな手（事業）を打ったらよいか分からないものも、評価対象として加えたらどうかという吉本委員の指摘。私もそう思うが、うまく事務局が見つけれられるかという問題もある。

委員 行政評価委員会は公開されてやっているのだから、私たちも外部評価されていると思うが、外部評価はこういうようにやったらどうかというような意見はなかったか。

事務局 この外部評価も総合計画の施策の1つであり、この施策に対する市民意識調査の自由意見を拾うことで答えることは可能である。

委員長 次回、またはまとまり次第、各委員に報告をいただきたい。

事務局 もう1点、外部評価の傍聴者アンケート結果からも把握することはできるが、声が聞き取りづらいといったような意見はあるが、委員会の本質的なことに対する意見はなかったように記憶している。

委員 昨年度までは事務局がピックアップした事業のうちから選択していくイメージだったと記憶しているが。

委員 昨年度は基本施策を評価したが、今年度は同じ施策の中の施策の内容を検証していくという考え方でよいか。

委員長 どれを選ぶかということは、これまでと同じように市民意識調査の重要度・満足度の結果を参考に30施策のうち6～7施策を委員の投票で選び、事務局で重要度の高い施策の内容（小施策）をピックアップするというのが事務局の案1であったが、吉本委員より困っているような事業を選び、我々がコンサルティングできるような評価もいいのではないかという意見があったということ。

この困っているような事業は、小施策レベルでもよいのか。

委員 小施策レベルでもよい。

委員長 非常に建設的な議論ができた。

事務局が提示した小施策評価（案1）とテーマ型評価（案2）であるが、テーマ型も非常におもしろい観点で議論ができそうではあるが、例えば2つともやると非常に分かりにくくなる部分もあるので、今年とは

りあえず案1の小施策評価を行い、小施策の選定過程では重要度の高いものだけでなく、吉本委員が提案した困っている事業をコンサルティングできるようなものも考慮していただくということによいか。

委員 コンサルティングということになると事業仕分けという形に近づいてきていないか。

事務局 今回の行政評価のスタイルでも、現在刈谷市が推進する方向性と違う意見をすべての委員からいただいた場合は、事業仕分けのような宣告に近いものがあるという側面も持っている。ただ、このような側面は、3年前に事務事業を外部評価していただいたときから変わらず存在していたものである。

委員長 市民が何かをやるときにいろんな意見があるけど、何かの意見を選択して進めていかなければならない。この場も様々な立場から様々な委員の意見があって、その意見を委員会として取りまとめることはしないで、市がその意見を聞き、その中から選択して事業を進めていくというのがこの委員会のスタイルである。すべての意見を取り入れていたら、しっかりとした方向性を見出せなくなるため、何かを選択しなければいけない。この委員会はこの考え方に基づいて、市が多様な意見をもらう場として運営すると設置当初にこの委員会で決めたことであるので、この委員会のあり方を忘れることのないようにお願いしたい。

委員 小施策での評価を行っていくということで、昨年度のようにシートが出てくると思うのだが、昨年度の外部評価でも目的や目標そのものへの意見が多く出ており、シートを作成する上でしっかりと事務局でチェックして完成度の高いものを作成していただくようにお願いしたい。

委員長 事務局と担当課の間で予備ラウンドを行っていただいて、改善されたシートを示していただければ、委員会の議論がより生産的になる。可能な限りで対応してください。

事務局 シートも昨年度オリジナルで作成したばかりのものなので、改善点などのご意見があれば、反映していきたいと考えている。お気づきの点などがあれば、随時ご意見をいただきたい。

事務局 最初の方で議論のあった事務事業の改善の成果について、サンプルとなるかもしれないが、次回の委員会で提示させていただきたい。

副市長 職員の改善提案の件数も年々増えてきている。例えば、豊田自動織機

への派遣職員が実践した時間の短縮、コスト意識の改善についても、幼稚園の業務効率があがったとの成果も出ているところ。

委員 外部評価とは関連がなくても、改善している内容を紹介していただければ、職員が改善に取り組んでいることがよく分かる。

委員長 事務事業の改善の成果については、サンプルでいいので是非提示をお願いしたい。このサンプルは、職員にも市民にも展開できるものとなると思うし、それが積み重なって事例集になるので、無駄になることはないと思う。

4 その他

○今後のスケジュールの確認